

令和4年度 第9回全体庁議（8月8日開催）

区分	審議・報告	案件名 (担当部)	(1) 第2期帯広市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況等 について[政策推進部]
----	-------	--------------	--

■ 提案・報告の趣旨

第2期帯広市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進にあたり、毎年度、取り組みの検証・改善を行うこととしており、今般、令和3年度の取り組みの評価・検証を行ったため、同内容を、今後、開催予定の帯広市総合計画策定審議会の議論も踏まえ、令和4年8月26日の総務委員会に報告するもの。

■ 提案・報告の主な内容(概要)

1 総合戦略の進捗評価等

- ・4つの基本目標毎に令和3年度の評価をとりまとめたもの。
- ・数値目標の進捗状況に応じて、「順調に進捗」、「概ね順調に進捗」、「さらなる進捗が必要」の3段階で評価している。
- ・基本目標1「新たな『しごと』を創り出す」が、創業・起業件数について目標を達成したため、「概ね順調に進捗している」と前年度の評価より進捗があったと評価している。
- ・一方、基本目標2「十勝・帯広への『ひと』の流れをつくる」、基本目標4「安心安全でいきいきと暮らせるまちをつくる」は、昨年度より引き続き、感染症の影響を大きく受け、行動制限や活動自粛などにより、「さらなる進捗が必要」となっている。
- ・感染症の影響により、進捗が思わしくない分野も存在するが、令和6年度までの計画期間を通じて、課題を整理しながら進めていく。

2 帯広市の人口動向

- ・北海道発表の平成27年及び令和3年における北海道主要都市の人口動態をもとに、増減率を道内主要都市と比較したところ、帯広市はマイナス2.1%となり、道央圏以外では減少幅が最も低い結果となった。
- ・自然動態の減少幅は拡大傾向にあり、令和3年については、850人の自然減となっている。また、帯広市における合計特殊出生率は、令和2年において、北海道と国の中間に位置している。
- ・社会動態はこれまで転出超過傾向であったが、令和2年からは転入超過となった。平成27年と比較し、令和3年は、東京、札幌への転出は2分の1減少しており、感染症の拡大が人口移動にも影響したものと考えられる。
- ・性別・年齢別の転入転出では、男性20代前半に転入超過傾向がみられる。
- ・外国人の人数については、感染症の影響により伸び率は減少しているものの、平成27年度より継続して増加しており令和3年では919人となっている。

■ 今後のスケジュール

- ・令和4年8月17日 総合計画策定審議会で議論
- ・令和4年8月26日 総務委員会へ報告

■ 審議結果

- ・同内容で、総合計画策定審議会の議論を踏まえ、8月26日総務委員会へ報告することで了承された。

■ その他、指摘事項等

- ・特になし